

# 2019改訂ヌリ課程の研究 —韓国幼保共通教育課程はどう変わったか—

新井 美保子<sup>1</sup> 清水 陽子<sup>2</sup> 吉田 真弓<sup>3</sup>

キム ヒジョン<sup>4</sup> 丹羽 孝<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 幼児教育講座

<sup>2</sup> 九州産業大学

<sup>3</sup> 名古屋短期大学

<sup>4</sup> 光神大学校

<sup>5</sup> 名古屋市立大学

## A Study on 2019 Revised NURI Curriculum in Korea

Mihoko ARAI<sup>1</sup>, Yoko SHIMIZU<sup>2</sup>, Mayumi YOSHIDA<sup>3</sup>,  
Hi-Jung KIM<sup>4</sup> and Takashi NIWA<sup>5</sup>

<sup>1</sup>Department of Early Childhood Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

<sup>2</sup>Department of Childhood Education, Kyushu Sangyo University, Fukuoka 813-8503, Japan

<sup>3</sup>Department of Preschool Education, Nagoya College, Toyoake 470-1193, Japan

<sup>4</sup>Department of Early Childhood Education, Kwangshin University, Gwang-ju, 500-710, Korea

<sup>5</sup>Professor Emeritus, Nagoya City University, Nagoya 467-8501, Japan

### I. 研究の目的と方法

#### 1. 研究の目的

本研究の目的は、2019年7月に改訂公布され現在幼稚園と保育所に適用されている「2019改訂ヌリ課程」（以下新課程）を対象として、何がどう変わったのか、そこから得られる幼児教育・保育課程研究への示唆点とは何かについて考察することである。

韓国の現行の幼児教育制度は概観的に言えば3～5歳幼児を対象とする幼稚園と、0～5歳乳幼児を対象とする保育施設の二重化となっている。幼稚園の内容はほぼ日本と同じだが、保育施設については少し差異がある。保育施設の中心はオリニジップ（保育所：家庭オリニジップを含む）という名称の保育施設で、これは日本の保育所と同様の内容である。設置主体も国公立、及び民間である。差異点は国公立及び民間立オリニジップの他に職場オリニジップ（勤労福祉公団立）、父母共同オリニジップ（父母共同組合立）、及び障がい児専担オリニジップがあること等である。

幼稚園の教育内容は幼児教育法を根拠として幼稚園教育課程が制定されていて、国家水準の基準として機能している。現行のものは2019年7月に告示された新

課程である。ところで韓国の国家水準幼稚園教育課程の沿革を見ると、1969年に「第1次幼稚園教育課程」が制定されて以降、2007年の7次改訂までは幼稚園教育課程だったが、2011年に韓国初の幼保共通教育課程としてヌリ課程が登場した。このときは5歳児限定だったが、2012年に3～5歳に対象を拡大した「3-5歳年齢別ヌリ課程」が制定公布された。それは2019年度まで適用されてきた。今回これが7年ぶりに改訂されて新課程となったのである。

一方、オリニジップの保育内容について見ると、2007年1月に韓国初の国家水準保育課程である「標準保育課程」が制定されている。そしてこの標準保育課程はヌリ課程の改訂に対応して2012年に第2次改訂、2013年に第3次改訂を行った。そして新課程に対応させて、2020年4月に「第4次標準保育課程」を制定・公布している<sup>註1)</sup>。

#### 2. 研究の方法

##### (1) 研究課題

新課程の改訂について調べる上での注目すべき点は2つある。1つは改訂過程（準備過程）の内容と特徴である。そしてもう1つは、改訂された内容がどのよ

うな特徴を持ったのかという点である。

韓国の国家水準教育課程の改訂過程を見ると、改訂への取り組み過程の透明性と、育児政策研究所（国務総理諮問機関）が大きな役割を果たしていること、及び幼児教育・保育界の研究者の強力な協力体制が構成されているという特徴がある<sup>註2)</sup>。

次に今次改訂の特徴として指摘されている点について、新課程と「3-5歳年齢別ヌリ課程；以下旧課程」との比較対照表を基礎資料として、簡単に説明してみる<sup>註3)</sup>。新旧課程比較から導出された主な特徴は、以下の9点である<sup>1)</sup>。

第1は、新課程では総論が新たに追加されていることである。そして、その分量は35字×57行とかなり多い。その内容は①新課程が幼児教育法第13条に根拠をおく国家水準の教育課程であること、②幼保共通教育課程であること、③新課程の改訂内容として特徴的なのは「幼児の全人的な発達と幸福を追求するための教育課程」という記述で、この教育課程が「幼児の日常生活と遊びを統合的に実現する教育課程」であることを明示している。第2は、ヌリ課程の構成方向として、「追求する人間像」をヌリ課程として初めて提示したことである。この内容の詳細については、Ⅱの1で説明する。第3は、構成体系の内容の簡素化（6項目→4項目）である。その内容は表現の簡素化及び領域説明の省略と、初等学校教育課程・標準保育課程との連携性の強調となっている。第4は、目標部分が「幼稚園・オリニジップの教育・保育目標」に変わって、内容と表現が簡素化（5項目→4項目）された。ここで強調されているのは心身の調和的発達である。第5は、総論の2「運営」部分が「ヌリ課程運営の基準」と変わって、記述内容が詳しくなったことである。そして新たに追加された内容は①標準保育課程と初等学校教育課程との連携性の強調、②「未来社会の変化を反映した教授・学習環境の提供」という部分である。第6は、「教授・学習方法」部分の詳細化（7項目→10項目）である。特に注意を引く部分としては遊び活動の強調と、幼児と教師、幼児と幼児、幼児と環境間の能動的相互作用を重視している点である。第7は、評価に関する内容変更である。特に評価の観点の「観察、活動・結果物分析、父母面談等多様な方法を使用して、総合的に評価して、その結果を記録する」という記述を見ると、その趣旨がよくわかる。第8は、「幼稚園・オリニジップヌリ課程支援」（第3章）が新設された点である。ここでは幼稚園とオリニジップに分けて、ヌリ課程の実行過程に対する国家と地方自治団体の支援内容が明記されている。この点は新課程の大きな特徴の1つである。第9は、「各論」部分の変更である。内容としては踏襲された5領域の内容範疇と内容部分であるが、全体的に記述の簡素化が行われたことが特徴的である。その詳細はⅡ-3で触れる。

## （2）先行研究の検討

2019年7月の新課程告示に関連して、日本において行われた新課程関連研究はいくつかあるが、その第一の資料は第72回日本保育学会で開催された国際シンポジウム関連資料である。この国際シンポジウムは新課程改訂に主導的役割を果たした育児政策研究所白仙姫所長による「韓国ヌリ課程、政策的意味とヌリ課程改訂の方向」を基調報告に、国家水準教育課程の意義と意味、及び日韓比較からの研究課題が明らかにされた<sup>註4)</sup>。そして7月の正式な告示以後では、丹羽・新井・清水・吉田等により一連の新課程関連研究を行ってきた。これらの研究では、①新課程改訂の背景要因の研究<sup>2)</sup>、②ヌリ課程改訂案の新旧比較検討―具体的な保育内容の分析<sup>3)</sup>、③告示後の定着支援政策に関する研究としての支援資料（「解説書」、「遊び理解資料」、「遊び実行資料」）の分析検討を行った<sup>4)</sup>。しかし、新課程のどこがどう変わったのか、それはどういう意味を持っているのかについての詳細な検討は行われていない。本研究はそれに対する回答模索の一つの試みである。

以下、Ⅱでは、上記の中で特に重要性の高いと思われる事項に焦点化して、（1）新課程で新設された「追求する人間像」の内容と意義について、（2）「子ども中心・遊び中心」の保育哲学の強調について、（3）簡素化された領域の内容範疇について概観し、考察する。また、Ⅲでは「子育て支援（育児支援）」の内容について新課程との関連性を踏まえながら、その現況について簡単に言及する。

## Ⅱ. 改訂内容の特徴

### 1. 「追求する人間像」の項目新設

今回の改訂によってヌリ課程として初めて導入された「追求する人間像」について、その導入の経緯・目的と具体的内容について検討する。

#### （1）導入の経緯

『2019改訂ヌリ課程解説書』（教育部・保健福祉部；以下『解説書』）では、「改訂ヌリ課程は国家水準の教育課程として、ヌリ課程が追求しなければならない教育的ビジョンとして追求する人間像を提示している」とし、この人間像は「未来の核心力量を反映した、初・中等学校教育課程の人間像と連携している」と記述している<sup>5)</sup>。21世紀未来志向の人間を育成するための教育的ビジョンを明示し、国家水準の教育課程として構成体系の確立を図ることの重要性に加えて、上級学校の教育課程と内容・形式上でも連携して進めるために、改訂ヌリ課程ではその「性格」や「追求する人間像」を新設したと考えられる。

このことについては吉田（2021）も、「追求する人間像」が新設された背景の1つとして、各学校級との

連携強化があることを指摘している<sup>6)</sup>。『育児政策研究所研究報告』（2017-26）<sup>7)</sup>によれば、初等学校教育課程（「2015改訂教育課程」）においては「追求する人間像」として、「自主的な人間、創意的な人間、教養ある人間、共に生きる人間」の4項目を提示し、これらを具現化するために備えるべき核心力量として、「自己管理力量、知識情報処理力量、創意的思考力量、審美的感性力量、意思疎通力量、共同体力量」を提示している。特に1～2学年（群）では、創意的体験活動を通じた体験中心教育の運営を主要改訂事項とするなど、ヌリ課程との連携を強化している。

ヌリ課程制定以前の幼稚園教育課程においても、第2次改訂（1979年）以来「追求する人間像」が提示されており、第7次改訂（2007年）では「①全人的思想の基盤の上に個性を追求する人間、②基礎能力を土台に創意的能力を発揮する人間、③幅広い教養を土台に開拓する人間、④我が文化に対する理解の土台の上に新しい価値を創造する人間、⑤民主市民意識を基礎に共同体の発展に貢献する人間」の5項目が設定され、これら幼児教育の人間像は独立したものではなく上級学校との関係において連携する必要があることとされていた。標準保育課程もヌリ課程と連携しており、これら各教育課程の連携性強化が項目新設の大きな背景となっていると考えられる。

なお、改訂案（試案）検討段階では追求する人間像について、「初等学校との連携のために、初等学校で記述している追求する人間像と核心力量をそのまま記述すればという意見が優勢」（韓国育児政策研究所研究報告）だったことから、初等学校と同様の4項目と核心力量の6種類が提示されていた。その後の検討により、「一生で最も重要な身体と精神健康の基礎を形成する、幼児期の特性を考慮」して「健康な人間」が加わり5項目となった。また、「初・中等学校教育課程における『教養ある人間』に該当するけれども、幼児の特性を考慮して適切な表現へ調整」（解説書）して、「教養ある人間」は「感性豊かな人間」へと変更された。

## （2）追求する人間像

提示された5つの人間像について、「解説書」ではそれぞれの人間像の具体的な意味と、それに関する幼児の特徴、そして教師の援助の方向性について説明されており、幼児の具体的な姿をイメージしながら援助方法を検討できる構成となっている。例えば、「健康な人間」の解説内容は以下の如くである<sup>8)</sup>。

### ア. 健康な人間

健康な人間とは、体と心が均等に発達して、自ら健康であることを維持して、安定的で安全な生活をする人間を意味する。幼児は自由に動いて遊ぶことを好み、世の中と楽しく交流しながら、自分の健康と安全を自

ら守っていく。改訂ヌリ課程は、幼児が丈夫な体と安定した情緒を土台として自分を大切に、日常において健康な生活を実践して、危険な状況では自分を保護する経験によって、健康な人間へと成長していくことができるように援助する。

ここでは体と心の両方の発達を求めて安定した情緒を土台として、自分を大切に、健康・安全を幼児自らが守り、健康な人間へ成長していくことを目指していることがわかる。自由に遊ぶ活動中では危険な状況と遭遇することも考えられるが、そこでの自分を保護する経験も含み、ここでも幼児が中心となって健康な人間に成長していくように援助する方針が現れていると言える。また、この後に続く「目的と目標」の中の目標には、例えば「ア. 自分の大切さを知って、健康で安全な生活習慣を身につける」項目が設定されており、この追求する人間像の実現に向けて必要な事項が目標として構成されていることがわかる。特に「自分の大切さ」を、健康な人間の主要な内容として提示していることは注目に値する。

以下、各追求する人間像の意味と援助内容の概要について調べてみる。

イ. 自主的な人間：自分をよく知って尊重し、自信を持って、自分でできることを主導的にしていく人間を意味する。幼児が自分についての理解を土台に、自分を価値ある肯定的な存在だと見なし、自分がうまくできることは何かを理解し、自分の能力を拡張するために自ら努力する人間へと成長していくことができるように援助する。

ウ. 創意的な人間：周辺世界に開かれていて、好奇心が沢山で、自分なりの方式で想像し、感じ、表現し、探究する中で、新しく独創的な思考をする人間を意味する。幼児が遊びを通じて自分の関心と興味に応じて世界を探索し、挑戦し、実験する過程に積極的に参加する人間へと成長していくことができるように援助する。

エ. 感性豊かな人間：芸術を愛し、尊重して、自分を取り囲む周辺世界に驚きと美しさを感じて、楽しむことができる豊かな文化的感受性をもった人間を意味する。幼児が日常と遊びの中で美しさを発見し、共感して、これらを多様な芸術で表現すると同時に、文化を享有する人間へと成長していくことができるように援助する。

オ. 共に生きる人間：自分が所属している社会に所属感を感じて、他の人間と生命を尊重して、自然と共に生きて、より良い社会を創るために社会問題に関心を持って協力する、民主市民を意味する。幼児が家族、隣人、動植物と周辺環境に関心を持って大切にして、相互に配慮する心と態度、責任意識を持った人間に成長することができるように援助する。

これらの解説内容からは、例えば、「幼児は自由に

動いて遊ぶことを好み、・・・自分の健康と安全を自ら守っていく」「幼児が丈夫な体と安定した情緒を土台として自分を大切に」「自分をよく知って尊重し、自信を持って、自分でできることを主導的にしていく人間」「自分を価値ある肯定的な存在だと見なし、自分がうまくできることは何かを理解し、自分の能力を拡張するために自ら努力する人間へ」「自分なりの方式で想像し、感じ、表現し、探究する中で、新しく独創的な思考をする人間」「自分の関心と興味に応じて世界を探索し、挑戦し、実験する」等、全体を通して個々の幼児の見方・考え方、感受性、興味・関心などを尊重し、「自分」という主体性の育ちを非常に重視していることがわかる。それに加えて「社会に所属感を感じて、他の人間と生命を尊重」「社会問題に関心を持って協力する、民主市民」の育成も図っている。これらのことから、個々の主体性と民主市民としての人間性の育成が強調された内容であると言える。

なお、新課程の告示文では追求する人間像が箇条書きで提示されているだけで、従来の幼稚園教育課程や当初の改訂試案と比較すると簡略化された表現に留まっている。子ども中心の考え方や教師の自律性・多様性の尊重の一環であるとも考えられるが、この人間像に向かって日々の幼児の遊びや生活の経験をどのように計画し実践し省察するのか、評価・検証していくことも重要となるであろう。

## 2. 「子ども中心・遊び中心」の保育哲学とその特徴

### (1) 「子ども中心・遊び中心」教育課程

新課程の最大の特徴は「幼児の全人的な発達と幸福を追求するための教育課程」であり、「幼児の日常生活と遊びを統合的に実現する教育課程」であることを明示している点である<sup>9)</sup>。教育部は国政課題の実現と出発線平等実現のために、2018年3月に「幼児教育発展基本計画－公共性強化による幼児教育革新方案」を提出して、以後5年間の幼児教育改革のための具体的な方策についての内容を明らかにした。その背景には、第4次産業革命と市民社会の成熟現象を踏まえた、「幼児教育パラダイム」の転換が必要だとの認識があり、「幼児が中心となる教育パラダイムの転換や、国公立幼稚園利用率40%拡大等、今後5年間の幼児教育の発展方向」等の提案が含まれていた。

新課程はこの政策方針を受けて①個別の幼児の多様な特性を考慮した内容構成、②幼児の自由な遊びの勧奨、③観察と記録等、幼児との相互作用の強調、④現場自律性尊重のための細部内容削除の4点を中心に改訂作業が行われた<sup>10)</sup>。この4つの視点は、幼児の願いや考えが保育に生かされ、幼児主体の保育実践を目指すためには、基本的で且つ重要な内容だと考えられる。

### (2) 「遊び中心」の保育哲学

幼児の自発的な遊びの教育的価値については、「幼

児教育の父」と呼ばれたF.フレーベル(1782-1852)をはじめとして、多くの幼児教育研究者が提唱してきたことである。そして今回の新課程では改めて幼児と遊び中心を強調しているが、ここではその理由について少し考察してみる。その基礎資料として有益なのは、3つの政府刊行物である。第1の資料である『2019改訂ヌリ課程解説書』では、その理由の1つとして「遊びの本質と価値を再度考えてみるため」であり、「遊びは幼児の日常で自然に現われて」いること、「幼児が世の中を経験して学んでいく」ことが遊びの中の学びとして示されていると述べている。韓国ではこれまで国家水準教育課程の制定に合わせて『教師用指導書』を作成し、質の高い保育の向上を図ってきた。しかし、反面一部の現場ではこの教師用指導書に依存して、ヌリ課程を画一的に運営したり、教師が計画した自由選択活動を中心に遊びを運営したりする等、幼児が自由に主導する遊びを実践する上で限界があったと指摘されてきた。新課程では幼児が各自、自分に一番適合する方法で、自ら遊んで学ぶという点に注目して、幼児が自由に遊ぶ時間を十分に確保することを勧奨している。つまり、「幼児の遊びに耳を傾けて、幼児が中心になって遊びが生きていく教育課程を創る」ことを目指していると理解することができる<sup>11)</sup>。

「遊び中心の保育哲学」の具体的な現場定着を支援する資料として韓国政府は、『解説書』に加えて、『2019改訂ヌリ課程遊び理解資料』(以下『遊び理解資料』)、『2019改訂ヌリ課程遊び実行資料』(以下『遊び実行資料』)を提供している。そのうち『遊び理解資料』は、3部構成となっている<sup>12)</sup>。第1部は「遊んで学ぶ有能な子ども」と「子どもの遊びの意味」の2部構成である。ここでは、生来子どもは遊びながら学ぶ力を持っていて、多様な遊びを体験し、さらに有能になると解説している。第2部では多様な遊びの実践事例を例示しながら、実践過程から遊びの意味を読みとる方法を具体的に例示している。新課程は教師が子どもの遊びの価値と意味を理解して、子どもの遊びを通じての学びを支援することに重点を置いていることが、よくわかる指導資料となっている。そして『遊び実行資料』は教師が実践する中で出会うであろう悩みや疑問に答えたり、助言したり、解決への示唆を与えたりできるよう構成されている。いわば遊びを中心に据えた新課程の方向性を確認し、実践適用支援するためのガイドブックなのである。

### (3) 遊び活動と教師の自律性

今回の改訂による顕著な変化の1つに、教師の自律性を支援して、現場で幼児の生き生きとした遊びが実現できるように、国家水準教育課程の内容記述を簡素化したことが挙げられる。ここで使用されている「自律性」とは、クラスの固有な特性が表れるように、遊びを中心に教育課程を運営することを意味している。

教師は幼児の遊びを通して、幼児が興味・関心を持っていることに応じて教育課程を運営する。従って、同じ幼稚園やオリニジップの同じ年齢のクラスでも一人一人の遊びを重視するため、全く異なった内容の教育課程を運営できると、教師の自由裁量に任せることの重要性和具体的な支援方法について詳しく説明されている。新課程の登場で、教師は「幼児と教師が同時に主体となるヌリ課程を実現する」ことに指導の重点を置いて、これまでの生活主題中心の従来型保育活動への反省を促している。そして、今後は、幼児の遊びをよく観察し、幼児が主体的に遊ぶ権利を回復するように援助することを明記している点は、これまでの実践現場の声をよく反映して改訂された一端を示していると考えられる。「子ども中心・遊び中心」の保育とは、幼児の主体性を重視した活動や生活を展開することである。幼児教育における遊びの重要性については、韓国でも従前から心理学、教育学、脳科学等の視点から活発に研究してきており、その一端は韓国幼児教育界における遊び研究の第一人者であるキムギョン Chol 教授の『遊び指導』研究でも知ることができる<sup>13)</sup>。こうした研究現況を踏まえていえば、今回の『遊び理解資料』や『遊び実行資料』に掲載された遊び事例の分析及び遊びの意味等の解説は、韓国の幼児教育研究者の長年の遊び指導研究の成果が新課程に反映されたといえるだろう。

### 3. 簡素化された内容範疇

旧課程は、それまで二本立てだった幼稚園教育課程と3～5歳保育課程を統合した共通課程であり、幼稚園とオリニジップに通う幼児が共通の教育内容を経験できるようになったという成果があった。しかし保育内容については、旧課程の年齢別教育内容が過大であるという問題が指摘されていたため、新課程ではそのような現場の声と、新しい時代の幼児教育を、という要求に対応して教育内容を簡素化し、幼児が主導する遊びを通じて学びが具現される「子ども中心・遊び中心」教育課程の理念が強調されることになった。その結果、新課程では旧課程の5領域に提示されていた369個の細部内容が、全59個へと簡素化された。その内容を詳細に見ると新課程では旧課程の5領域を継承した各領域に3個の内容範疇があり、計15個となった。各領域の内容は身体運動・健康領域12個、意思疎通領域12個、社会関係領域12個、芸術経験領域10個、自然探究領域13個の計59個である。この59個の内容は、「幼児が経験すべき内容」として提示されている。

次に身体運動・健康領域を例に挙げ、具体的な簡素化について説明してみる（表1参照）。この領域の構成体系は、旧課程では内容範疇5項目、内容13項目、細部内容96項目（表1では省略）であったが、新課程では内容範疇3項目、内容12項目となった。

紙面の都合上、表1には記載できないが、旧課程に

表1 内容範疇と内容の新旧比較

3-5 歳年齢別ヌリ課程		2019 改訂ヌリ課程	
内 容 範 疇	内 容	内 容 範 疇	内 容
身体を認識する	感覚能力を育てて活用する	身体活動を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を認識して動かす。</li> <li>・身体動作を調節する。</li> <li>・基礎的移動運動、その場の運動、道具を利用した運動をする。</li> <li>・室内外身体活動に自発的に参加する。</li> </ul>
	身体を認識して動かす		
身体調節と基本運動をする	身体調節をする		
	基本運動をする		
身体活動に参加する	自発的に身体運動に参加する		
	外で身体活動する		
	器具を利用して身体活動をする		
健康に生活する	体と周りを清潔にする	健康に生活する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の体と周りを清潔にする。</li> <li>・体によい食べ物に関心を持って、正しい態度で食べる。</li> <li>・一日の日課の中で適当な休息をとる。</li> <li>・疾病を予防する方法を知って実践する。</li> </ul>
	健康に生活する		
	疾病予防をする		
安全に生活する	安全に遊ぶ	安全に生活する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の中で安全に遊んで生活する。</li> <li>・TV、コンピューター、スマートフォン等を正しく使う。</li> <li>・交通安全規則を守る。</li> <li>・安全事故、火災、災難、虐待、誘拐等に対処する方法を経験する。</li> </ul>
	交通安全規則を知る		
	非常時、適切に対処する		

出典：教育部・保健福祉部『2019改訂ヌリ課程解説書』（第Ⅲ部比較表）から吉田作成。

は内容の下位項目として細部内容が各領域年齢別（3, 4, 5歳）で記述されている。本領域について見れば、その数は96項目にも及んでいる。そして改訂時の簡素化によって、この96項目は12項目となった。この5領域の内容の簡素化を概観すると、以下の2点の特徴が注目される。

第1に、「幼児が経験すべき内容を年齢区分なく提示」したことである。旧課程では内容の下位項目として細部内容が各領域、年齢別に記述されていた。しかし新課程では年齢区分をなくして簡素化した。これは保育の内容を「幼児が経験すべき内容」と把握しているため、これを年齢で仕分けることは難しく、年齢別区分が個別の幼児の学びの特性を制限することになるのではないかという憂慮が反映したものである。また、年齢区分なく幼児が経験すべき内容で構成された保育内容は、幼児が遊ぶ実際の内容を中心に新課程を運営する土台となるという点において、意味があると考えられた上でのことである。

第2に、「簡素化された内容での教師のヌリ課程実践支援」という記述が挙げられる。新課程の保育内容の簡素化は、教師がヌリ課程の5領域を幼児の遊びを中心に実践化できる援助となる。そのため教師は教育課程に提示された過大な内容を全て教えなければならないという考え方を脱して、簡素化された内容を、幼児の遊びを通じた学びと連結して理解することで、幼児・遊び中心教育課程を容易に実践することができると考えられている。

### Ⅲ. 新課程と育児支援

新課程施行下の国家次元での育児支援政策は、1つは新課程の現場定着を支援する新課程関連補助金システム、もう1つはそれ以外の育児支援政策に区分することができる。以下簡単にその内容について概観する<sup>註5)</sup>。なお、韓国では子育て支援という用語としては「育児支援」または「子女養育支援」が使用されているので、ここでの用法はそれに従っている。

#### 1. 新課程定着支援

この政策内容には新課程の現場定着の為の支援政策①保育料支援、②ヌリ課程担当教師支援（担当教師研修支援およびコンサルティング支援を含む）、③補助金支援（待遇改善費、運営費を含む）に区分することができる。この内容は新課程の施行に際しても、大きな変化はない。以下、その概要を整理すれば、以下の如くである。

##### (1) 保育料支援

ヌリ課程補助金は、13年－14年までは1人当たり、22万ウォン（1万ウォンは約1,000円）は保育料（国費＋地方費＋地方教育財政交付金）、7万ウォン（地

方教育財政交付金）は満3-5歳担当教師待遇改善費及びヌリ課程運営支援費として支援されたが、2015年からは支援財源全額を地方教育財政交付金に一元化された。児童1人当たり22万ウォン（21年26万ウォン）は保育料、7万ウォン（19年 8,120ウォン、20年以後8,140ウォン追加支援）は満3-5歳担当教師待遇改善費及びヌリ課程運営支援費として活用されるよう支援している。市・道は全体満3-5歳児予算中保育料（手数料を含む）を除外した予算で、管轄市・郡・区別で月別3-5歳ヌリ課程担当教師待遇改善費及びヌリ課程運営支援費を支援している。

補助金申請システムは、①オリニジップは毎月10日までに、補助金（待遇改善費および運営費）を保育統合情報システムで申請する。その後各自治団体の承認過程を経て補助金が支給される。2012年以前には所得下位70%に支援していたが、保育料値上げによる父母負担軽減のために、2012年から満5歳児に20万ウォンを支援、13年から満3-5歳児すべてを対象に22万ウォンを支給、2021年には26万ウォンに引き上げられた。

#### (2) ヌリ課程担当教師支援

ヌリ課程担当教師に対する支援は待遇改善費であるが、受給のための基礎資格として保育教師1・2級を所持する保育教師を原則としていて、自治体等で実施するヌリ課程研修を必ず履修しなければならないとされている。この支援を受ける為に必要なヌリ課程担当教師研修は、保健福祉部(中央育児総合支援センター)、市・道、市・郡・区、市・道育児総合支援センター間が相互に協力して行っている。研修は集合研修8時間、サイバー教育30時間となっている。未履修時はこの支援金は支給されない。資格は中央育児総合支援センターで、担当教師教育履修可否等の履歴管理がされている。

##### 1) ヌリ課程担当教師待遇改善費

ヌリ課程を担当する教師には毎月待遇改善費が支援されていて、自治体担当者が直接教師口座に送金する。金額の変遷については表2の如くである。

##### 2) ヌリ課程運営支援費

ヌリ課程運営に必要とされるヌリ課程運営支援費は、全体の満3-5歳児予算中、保育料（手数料含）と担当教師支援額を加えた全額を運営費生成基準児童数で均分して、自治体からオリニジップに支援されている。運営支援費補助は、前述のように児童1人当たり7万ウォンだったが、2019年から1人当たり8,120ウォン、2020年から8,140ウォンを追加支援している。運営支援費の使用明細は、ヌリ課程補助教師人件費（優先活用）、教材・教具および教育機材、その他の市・道（郡・区）でヌリ課程運営のために必要と認定した項目となっている。市・道（市・郡・区）では、支出項目に対する細部規定を準備して適用しており、ヌリ

課程授業運営等に活用しているかどうかの指導管理が必要とされている（債務償還、単純茶菓や会食費用等、ヌリ課程と関連のない経費使用は制限）。

ヌリ課程補助教師人件費は、2014年の70万ウォンから始まって、2021年の101.1万ウォンまで持続的に増加している。補助教師は、保育統合情報センターシステムに「ヌリ課程（非担任）補助教師」と登録するようにして、1日4時間以上、午後の時間に勤務することを勧奨している。2021年には、1人の教師が2回勤務することが可能となった。4大保険本人負担金を含んで、4大保険及び退職積立金はオリニジップのヌリ課程運営費から負担する。補助教師人件費支援額は表3の如くである。

## 2. その他の育児支援政策

韓国は低出産現象による対応策として、多様な育児支援政策が準備されていて、需要者が期待する保育の質的向上が国家の目標となっている。これによる国家責任保育政策の実現が強化されており、需要者要求の無償教育・教育支援中心の方向で政策が拡大されている。韓国の子どもの支援政策は支援金補助の形態で行われているのと同時に、多様な育児需要に対応するためにその他の制度的支援を拡大している。政府は「低出産・高齢化社会基本計画」に従って、「中長期保育基本計画」第1, 2, 3次に区分して実行している。現在の「第3次中長期基本計画2018-2022」（保健福祉部、2017）では1次、2次基本計画中の「妊娠・出産に対する拡大」の領域を「妊娠・出産等社会責任システム構築」へと名称を変更して、「支援拡大」ではなく「社会責任システムを構築」という意思を表明して育児支援政策を実行している。しかし、国家の支援拡大にもかかわらず韓国は2019年現在、OECD国家中出産率が最も低い国家となっている。

韓国の育児支援政策は「手当支援政策」と、「保育・教育支援政策」に分類されている。

「手当支援政策」は、以下の5種類である。①児童手当は普遍的現金給付（2019. 4月改編）、86ヶ月未満10万ウォン支給、②家庭育児手当は機関保育を利用していなくて、家庭で子女を直接養育する場合、現金で家庭養育手当の支援を受けることができ、0-11ヶ月（20万ウォン）、12-23ヶ月（15万ウォン）、24-35ヶ月（10万ウォン）、36-86ヶ月（10万ウォン）を支給、③農漁村養育手当は、農漁村であることの確認過程を経て支援を受ける。金額は0-11ヶ月（20万ウォン）、12-23ヶ月（177,000ウォン）、24-35ヶ月（156,000ウォン）、36-47ヶ月（129,000ウォン）、48-86ヶ月（10万ウォン）、④障害児童養育手当は、障害累計と障害等級に関係なく、障害児童には全員支援される。金額は0-35ヶ月（20万ウォン）、36-86ヶ月（10万ウォン）である。

次に「保育・教育支援政策」がある。これは機関利用者支援と家庭養育者支援および休暇支援に分類される。機関利用支援は幼稚園利用型（半日型、全日型、放課後課程）、オリニジップ利用型（ヌリ課程利用クラス、対応型クラス、緊急保育バウチャー、全日クラス）となっている。それぞれに対象と利用制限時間等が決められている。家庭保育利用施設支援は、①時間保育（保健福祉部で管轄）：0-2歳乳児を対象に「時間制保育指定オリニジップ」と「育児総合支援センター」で保育提供、②子どもトルボム（相互援助組織：女性家族部で管轄）：12歳以下の児童に「時間型」と「全日型」を支援、③移動式遊び教室（農林畜産食品部で管轄）：未就学児童支援で保育サービス利用困難な農漁村地域に出かける遊び教室が運営されている。

休暇支援政策には、①女性休暇：勤労者子女の母親の出産休暇期間は90日間（3ヶ月）、墮胎児は120日（4ヶ月）、妊娠中の女性は出産後3ヶ月間休暇使用が可能、②共同休暇：勤労者子女の父、母を対象に、「父母育児休職」と「育児期勤労時間短縮サービス」が利用可能である。父母育児休職は子女1名あたり1年間、

表2 ヌリ課程担当教師支援

2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
30 万ウォン							33 万 ウォン	36 万 ウォン	36 万 ウォン

出典：保健福祉部「保育事業案内」2012～2021各年度版による。キム作成。

表3 ヌリ課程補助教師人件費（月報酬）

2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
		70 万 ウォン	76 万 ウォン	784,000 ウォン	811,000 ウォン	832,000 ウォン	973,000 ウォン	1,002,000 ウォン	1,011,000 ウォン

出典：保健福祉部「保育事業案内」2012～2021各年度版による。キム作成。

父、母中2回の育児休職が使用可能で、育児期勤労時間短縮は子女1名あたり育児休職と育児期勤労時間短縮を合わせて、最大2年まで使用可能、③男性休暇：勤労者子女の父は「配偶者出産休暇」と「父親育児休職ボーナス制」を利用することができる。配偶者出産休暇は10日で、父親育児休職ボーナス制は、最初の3ヶ月育児休職給与で月最大250万ウォンの支給が可能である。

以上が新課程現場定着支援を通じての子ども支援と、それ以外の主として育児中の養育者支援による、韓国の子ども支援政策の概要である。

#### Ⅳ. 発展課題

以上のように本稿では2019年7月に改訂告示された「2019改訂ヌリ課程」がどう変わったのか、その特徴について考察した。特にⅡでは、①新設された「追求する人間像」の内容とその意味を明らかにし、②「子ども中心・遊び中心」の保育哲学の内容について明らかにし、③簡素化された内容体系について、「健康・安全領域」を例として明らかにした。Ⅲでは、韓国政府による子育て支援政策の内容を①ヌリ課程関連の支援政策と、②それ以外の政府水準での育児支援政策の実際について概観した。

全体を通して、2019改訂ヌリ課程では、新時代への教育及び初等学校教育課程との連携強化も背景として「追求する人間像」を新設し、そこでは「自分」という個々の幼児の主体性と民主市民としての人間性の育成を強調していることが明らかになった。そしてその実現に向けて、「子ども中心・遊び中心」の教育課程を編成し、教師が幼児の遊びの価値と意味を理解して、幼児の遊びを通じての学びを支援することに重点を置いていることが明らかになった。幼児は同年齢でも個々に興味や関心が異なり、その表現として遊びの内容も異なる。従って新課程において教師は、幼児の個々の遊びに応じて異なった内容の教育課程を運営する必要があるため、教師の自由裁量部分を拡大させ、言わば幼児と教師が同時に主体となる幼児教育の実践へ変化することを求めたと言える。具体的な保育内容についても、「内容範疇」及び「内容」の項目数を大幅に削減し、年齢区分も撤廃し簡素化を行うことにより、幼児中心・遊び中心の教育課程を容易に実践することができるように考慮されている。さらに、この教育課程・教育方針の大転換に際し、解説書や遊び理解資料等の実践支援資料を作成し教師支援を行うだけでなく、満3-5歳担当教師待遇改善費及びヌリ課程運営支援費も増額して教師に対し具体的に支援を行っていることが明らかになった。これらの取り組みから、国としても改訂ヌリ課程を強力に推進しようとしていることがわかる。

本研究の成果を踏まえて得られた次の発展課題について整理すれば、第1は新課程の現場定着過程に着目する必要があると考えられる。新課程が幼稚園やオリニジップ施設でどのように受容され、定着・発展しているかについて、現地訪問調査によって明らかにする必要がある。新課程が強調している「子ども中心・遊び中心」の教育課程はどのような成果と課題を生み出しているかは、大変興味深い研究課題である。第2は、新課程の制定施行及び受容課程に関する先行研究の成果分析である。そのため韓国幼児教育界における諸研究をリストアップし、その内容と特徴を分析することを基盤として、日本の国家水準教育課程制定過程と内容構成の発展への示唆点を導出することである。こうした研究を丁寧に行うことによって、日韓幼児教育研究交流の発展に資することができると思う。

#### 註

- 1) 第4次標準保育課程については新井美保子他「韓国の第4次標準保育課程の研究」(愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第7号, 2022.3) 参照。
- 2) 改訂背景、改訂方向等は、清水陽子・丹羽孝「『2019ヌリ課程』改訂過程の研究」(日本子ども支援学会ニュースレター「風の便り」2022年3月号所収)の清水論考参照。
- 3) 韓国育児政策研究所(2017)「3-5歳年齢別ヌリ課程改訂(案)開発研究」(育児政策研究所)。「2019改訂ヌリ課程」告示文日本語訳は、日本保育学会HP参照。
- 4) 丹羽孝他「国際シンポジウム報告」,(保育学研究第57巻2号, 2018) 参照。
- 5) 第Ⅲ章の記述は、保健福祉部「保育事業案内」2012～2021各年度版による。なお韓国の育児支援政策関連の基本資料としては以下のものが有用である。  
①育児政策研究所(2018)研究報告2018-25『育児政策分析と課題』(Ⅰ)  
②同上(2019)研究報告2019-17『2018育児政策成果分析を中心に』(Ⅱ)  
③同上(2020)研究報告2020-18『2019／2020成果分析を中心に』(Ⅲ)  
④低出産・高齢社会基本計画委員会(2019.2)「第3次・高齢社会基本計画(修正版)」

#### 引用文献

- 1) 吉田真弓・清水陽子・丹羽孝(2021)「『2019改訂ヌリ課程』改訂案比較研究」名古屋短期大学研究紀要第59号, p.22
- 2) 前掲 註2)
- 3) 前掲 1)
- 4) 新井美保子・丹羽孝・矢藤誠慈郎・韓在熙(2021)「遊び中心幼児教育課程に関する日韓比較研究」愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第6号, pp.9-18
- 5) 教育部・保健福祉部(2019)『2019改訂ヌリ課程解説書』p.17
- 6) 前掲 1) p.23
- 7) 前掲 註3) p.22

- 8) 前掲 5) pp.16-17
- 9) 前掲 4) p.9
- 10) 前掲 5) pp.7-10
- 11) 前掲 5) p.8
- 12) 教育部・保健福祉部 (2019) 『2019改訂ヌリ課程遊び  
理解資料』 p.9
- 13) キムギョン Chol・チャンヨンジェ (2016) 『遊び指導』  
良書院

#### 付記

本研究は、令和2年～4年度、科学研究費基盤研究（C）  
「韓国国家水準幼児教育課程の改訂・実行過程に関する調  
査研究」（課題番号20K02644, 研究代表者：清水陽子）に  
よる研究成果の一部である。

(2022年9月16日受理)